

平成26年度宮古地区安全大会開催



平成26年度の宮古地区安全大会（主催・県労働基準協会宮古支部など4団体）が6月13日に宮古島市中央公民館で開催されました。

同大会は、安全意識の高揚と安全活動の定着を目的に、全国安全週間（7月1日～7日）の準備期間中に開催されたもので、企業の安全担当者等約100人が参加し、労働災害の減少には「安全意識を高め、安全に対する慣れや過信を捨てて安全活動を推進することが必要」とする大会宣言を採択しました。

大会では最初に、労働災害で亡くなった労働者の冥福を祈り、1分間の黙とうをささげました。

主催者からは、「事業主と職員が一体となって、労災防止活動に取り組みゼロ災害を達成しよう」との呼び掛けや「災害はちょっとした不注意や気の緩みから発生する、災害は身近に起こるものだ」とし、一人一人の気の引き締めを促しました。

労働基準監督署からは、「宮古地区における平成25年の労働災害は商業や保健衛生業などの第3次産業が全体の9割を占め、同産業の安全管理活動の遅れが安全対策上の課題になっている」と報告があり、「魅力ある職場づくりには「安全」は欠かすことはできない」とした上で、「大会を機会に安全に対する機運をつなぎ・広げ・高めてほしい」と激励しました。

また、宮古島海上保安署署長が「海の安全・安心」と題して特別講演を行いました。

大会宣言に次いで「指差呼称」を行い、今後の安全活動に決意を新たにしました。

